

あいち山村振興ビジョン 2020

年次レポート（平成30年度版）

～ 「やま・ひと・なりわい」を継承し、未来を創る ～



羽布ダム小水力発電所



あいちの山里 MAX（平成30年1月27日）



奥三河パワートレイル（平成29年4月30日）

平成30年9月

目 次

第1 作成の趣旨

作成の趣旨	1
ビジョンの対象地域	2
めざすべき将来像と重点的施策	3

第2 平成29年度の主な取組状況

5つの重点的施策の展開

1 山里のひと・なりわいをつくる	4
2 地域資源を磨き上げる	8
3 安心・安全な地域社会をつくる	13
【コラム 三河の山里起業実践者と 山里の魅力創造社】	18
【コラム 鳥獣害対策の推進 (愛知産ジビエの消費拡大について)】	19
4 都市との絆を深める	20
5 持続可能な社会基盤を整備する	23

第1 作成の趣旨

三河山間地域は、人口の減少や高齢化の進展など厳しい状況にある一方、平成28年に新東名高速道路の開通、平成30年度中には三遠南信自動車道(佐久間IC<仮称>－東栄IC<仮称>間)の開通が予定されており、この地域の条件を大きく変化させる可能性を秘めたプロジェクトが進展しております。

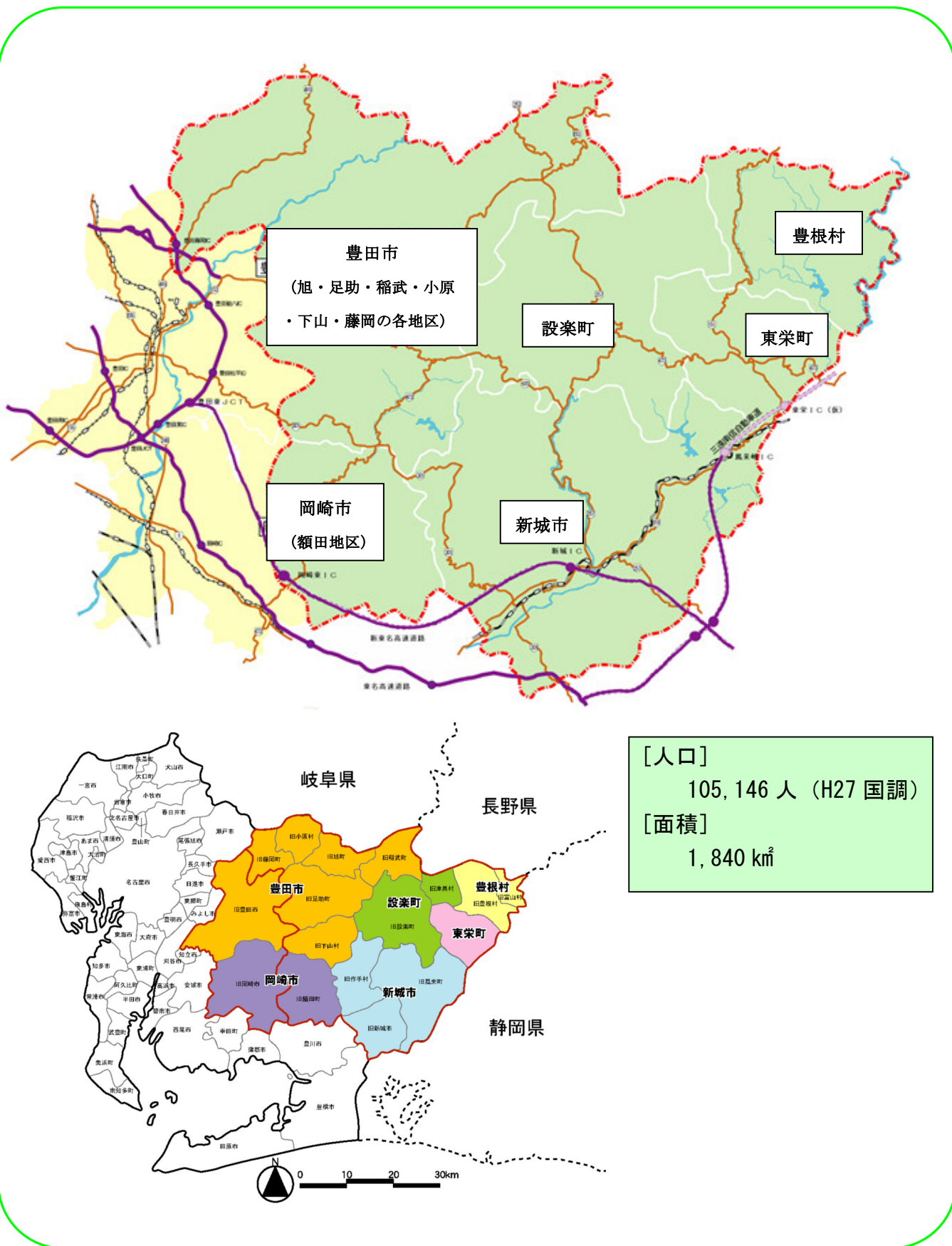
さらには、農山村に対する関心の高まりなど、この地域に活性化の機会をもたらす時代の潮流も認められます。

県では、こうしたプロジェクトの効果や時代の潮流の変化から生み出されるチャンスを最大限に受け止め、地域の活力を再構築するため、三河山間地域の長期的・総合的な振興の指針となる「**あいち山村振興ビジョン2020**」(平成28年2月)を策定し、2030年(平成42年)までを展望したうえで、めざすべき将来像を「**愛知の元気の源・豊かな山の暮らしの実現**」としました。そして、この将来像を実現するため、2020年(平成32年)を施策展開の目標年次として、県が重点的に展開していく5つの施策の方向性を明らかにし、具体的な施策展開を行っています。

この施策の展開にあたっては、地域住民はもとより、企業、大学、NPO、ボランティアの方々など様々な主体との多層的な連携並びに都市地域を含む広域的な連携が不可欠です。

そのため、ビジョンに位置付けた施策の平成29年度の主な取組状況をまとめた「**あいち山村振興ビジョン2020 年次レポート(平成30年度版)**」を、ホームページを通じて情報発信し、多層的、広域的な連携主体と情報の共有や認識の統一を図ってまいります。

〇ビジョンの対象地域



めざすべき将来像と重点的施策

めざすべき将来像<2030年（平成42年）頃の地域のめざす姿>

愛知の元気の源・豊かな山の暮らしの実現

3つの展望の観点

- ① 山の暮らし ② 山の魅力・活力 ③ 都市との交流・連携

2020年（平成32年）に向けて取り組んでいくべき5つの重点的施策

- ① **山里のひと・なりわいをつくる**
～山里の暮らしや地域づくりと一体となった「なりわいづくり」を推進していく～
- ② **地域資源を磨き上げる**
～地域の自然や文化、歴史等の地域資源を磨き上げていく～
- ③ **安心・安全な地域社会をつくる**
～暮らしを支える安心・安全な地域社会をつくっていく～
- ④ **都市との絆を深める**
～多様な主体の連携のもとに都市との絆を深めていく～
- ⑤ **持続可能な社会基盤を整備する**
～広域交通基盤の整備などの持続可能な社会基盤を整備していく～

ビジョンの進行管理に係る主な評価指標

評価項目	評価指標	平成29年実績
山里のなりわい ⇒農起業支援センター等が支援する就農・起業者数	平成32年までに 140人程度	16名 (累計：42名)
地域資源の磨き上げ ⇒観光レクリエーション利用者数	平成32年に 660万人程度	670万人
安心・安全な地域社会 ⇒三河の山里サポートデスク等による支援集落数	平成32年までに 60集落程度に拡大	8集落
都市との絆 ⇒三河の山里サポートデスク等を通じた移住者数	平成32年までに 800人程度	220人 (累計：468人)
交通基盤の整備・強化 ⇒山間部の暮らしや産業を支える道路供用延長	平成32年までに 約11km増加	3.3km (累計：5.8km)
農地・森林の保全・整備 ⇒農地・森林の保全・整備面積	平成32年に 農地900ha、森林4,000ha程度	農地867ha 森林3,140ha